

建設水道委員会会議録

1. 開催年月日

平成26年 5月14日 開会 10時00分 閉会 11時35分

2. 開催場所

委員会室

3. 出席委員名

簀戸利昭 三輪順治 柳井一徳 惣台己吉
大滝文則 藤原清和

4. 欠席委員名

なし

5. その他の会議出席者

(1) 議長 宮地俊則

(2) 副議長 上野安是

(3) 事務局職員

事務局長 三宅道雄 事務局次長 岡田光雄

主任 藤井隆史

6. 傍聴者

なし

7. 発言の概要

委員長（簀戸利昭君） ただいまから建設水道委員会を開会いたします。

〈議長あいさつ〉

〈所管事務調査〉

〈農産物のブランド化について〉

委員長（簀戸利昭君） 前回の委員会での協議事項のおさらいをいたします。

情報収集については、先般の委員会において執行部から提出されたものを中心にした資料配付、また近隣市町の支援制度については後日議員ロッカーへ配付、支援制度の把握については各委員で読み込んで把握していただく。副委員長に政策制度等に関する一覧表を作成していただくことに。また、意見交換等の開催については、JA、部会、農業普及センターと

行う。質問等については、先月の30日までに提出していただくことに決定をいたしました。

それでは、協議に入ります。

まず、質問事項について協議いたします。

提出された質問事項等につきましては、事前に配付し確認していただいております。各委員におかれましてまとめていただいていると思いますので、これより委員間討議を行います。

まず、1番目に依頼先ごとにまとめるということで、どこも実質的な協議を行っていくか、JA、部会、普及センター等でございます。質問事項があればどういう質問をしていくかでございます。ヒアリングシートの作成については、委員会で皆さんで協力いただいってつくっていくのがいいのではないかと考えております。

それでは、それぞれの委員さんで委員間討議を進めていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

委員（藤原清和君） ここへもう既に30日にいろいろまとめて出されておる委員さんもういらっしゃいますが、私はまだ出してないんですけど、30日に。もう順番に行かれたらええんじゃないかと思うんですけど、出とる、先ほど言いました農業のブランド化についてということで。2つ、企業誘致と両方出しとってですけど。

大滝さんが出しておられますけど、こういうふうに関心を持ってもらえる方の意見を聞くのが一番じゃと思います。それを踏まえながらどういうことが解決できるかということを含めていくんですから、質問していくのは、依頼先についてはこういった生産者の団体であると思います。JAとかいろいろあろうけどな。

委員（柳井一徳君） 今藤原委員がおっしゃられましたように、大滝委員さんがつくっていただきましたこのブランド化についての質問をもとに、もう一つの資料の目次（案）の第1章現状の把握ということも踏まえて、生産者及び、また生産者団体へ質問していくという方向から進んでいくべきだと思います。

委員（大滝文則君） 4月30日までに質問をとということで、前日かどっかちょっとばたばたしてから、急に提出したんですけども、先ほど議長のあいさつにありましたように、地域の人口減対策とか雇用対策、過疎化対策というものがこれは井原市に限らず、各市町村の喫緊の課題であり、また競争になつてくるような状況であるかと思っています。となると、このことは全て、先ほどの話にもあったように、スピーディーにやっつけていかないと、タイムリーな政策を打つためにどうしたらいいんか、それから簡明な形で持っていくと、複雑な形になってくるとなかなかまたそこで問題が起きるんじゃないかということがありますんで、先ほど藤原委員さんが言われてましたように、現状の把握と課題、それから可能性と

かというのを探るためにも、とりあえず最初の第一歩としては、関係機関との要望を含めた協議というものをして、今の現状と課題をまず確認する、そしてどういうふうな、先ほど言ったようにタイムリー、またスピーディーな政策を打てばどうかという提案するための方法はどういうことがあるかということ、しっかりとそういう場で確認したほうがいいんじゃないかと思っておりますので、そのあたりの質問内容についてはまた今後あるんでしょうけども、とりあえず依頼先をどこにするのか、まずそこを協議というか討議したらいいんじゃないかと思えます。

委員（三輪順治君） 今、お三方がおっしゃったようなことで、まず現状を正しく、何が問題で何が必要でということに関係機関にお聞きすべきであろうということでもありますので、テーマごとに2つあります。農業分野とそれから産業分野、この2つについてそれぞれ、これからヒアリングをさせていただく、あるいは意見交換をさせていただく関係団体を抽出するという格好でいけばいいというふうに思えます。よろしくお願ひします。

委員長（簀戸利昭君） まず、農産物のブランド化ということでもありますから、協議先をどこに持っていくかというようなご意見であったらと思うんですが。

まず、どこでどういうふうな意見交換なり、招致なりをしていくかということを取り決めたいと思えますがいかがでしょうか。

委員（柳井一徳君） やはり井原市ということでぶどうに力を入れてやっておるわけですから、ぶどう生産組合でしょうか、そういった関係機関の方々と、それとまたこういう委員会方式じゃなくて座談会方式のような、忌憚のない意見が出るような、お互いに話し合いができるような場を設けていただきたい。会議室等を利用してやっていくというほうが意見も出やすいんじゃないかなというふうに思えます。

委員（三輪順治君） 具体的に言うてみて。部会。

委員（柳井一徳君） ぶどう部会ですかね。

委員長（簀戸利昭君） ぶどう部会でしたらというようなご意見がありました、ほかにご意見はございませんでしょうか。

委員（三輪順治君） 進行上、私はこの地区の農業をともにやるに、このあたりJA西ですね、ここは欠かせんと思えます。JAの西が全般的な井原産の流通関係を治めていただいていますし、太枠はご承知でございましょうけど、まず森を見て木を見ずという、JAとやる。それからあと、今さっき言いました部会も大いに結構でございしますので、生産者イコール部会であるかもわかりませんが、それを一体とすればもう一つ切り口変えて、笠岡にある農業普及指導センターですか、あるいは国、県との関係機関との意見交換というのは第3番目ぐらいに、もし時間的な余裕があれば大局的な見地で、TPPの問題もあるでしょうし、なかなか難しいことはありましようけども、県や国の思い、県の思いですね、これもお聞き

したらどうだろうかというふうに思いますので、私は3団体プラス1上位機関といいますか、関係機関、これらをやっていけばいいというふうに思います。

委員長（簀戸利昭君） 今、ぶどう部会、生産者部会というご意見とJA岡山西というご意見、また県、国というご意見が出ましたが、いかがいたしましょうか。

委員（藤原清和君） 当面は、その一番もう身近で生産されておる生産者団体と、いろいろな現況についてじっくりと私たちが認識するということが一番じゃと思いますから、そういうことを踏まえながら、もう次の段階に進めていくということで、一番身近なところから進めていきたいというふうに思っております。

委員（大滝文則君） おおむねそれでいいと思うんです。JAとぶどう部会というのを別個にするのか、一緒のほうがいいのかということは先方と話をさせていただいて、できれば1回のほうがそこはスピーディーになるかもわかりませんし、そのあたりは調整していただいて。

それから、先ほど言った普及センター、国、農政局とかということもありましょうけども、普及センターで状況は多分同じことになってることと思いますから。それから、井原市の農業委員会のほうのデータがいろいろと、どういうふうにお持ちなのか、このあたりも可能性があるのかどうかということが次の段階で考えるとして、初めはやっぱりJA、ぶどう部会、普及センターの順ではないかというふうに思います。

委員長（簀戸利昭君） それでは、ぶどう部会、JAというご意見が出ておりますが、いつ、どういう形でJAとブドウ部会をまずということでありますので、それについてはコンタクトをとって、どういう形にするかということでご異議ございませんか。

〈異議なし〉

委員長（簀戸利昭君） それの時期をいつにするか、いつに協議並びに会議を持つかというところでありますが、いつごろがよろしいでしょうか。

委員（三輪順治君） ヒアリング項目をまだ決めてないんですけども、ものによれば時間がかかる、回答に時間を要するものもあれば、その部会員とかあるいはJAの中で議論を深めてもらわなきゃいけないということもあるので、まずは日にちというよりか、何を聞くかということを決めて、それから先方にお伺いを立てるようにして、日程のほうは先方任せにならざるを得んという側面がありますから、まずは何を我々聞きたいかということをもまず先行すべきであると思います。

委員長（簀戸利昭君） 何を聞くかということを決めていったらどうかというご意見が出ましたが、ほかにございませんか。

〈なし〉

委員長（簀戸利昭君） 何をJ A、生産者部会に聞くかということの内容を決めていただきたいと思います。

余談ではありますが、資料のブランド化について、質問事項についてというメモ用紙が用意してありますので、それに列記していただければありがたいなと思いますが。

委員（惣台己吉君） 今、お話の中でぶどう部会とJ Aということのやつで、できれば一緒に顔を合わせてお話をということで、私はもう賛成なんです。

それで、ブランドの質問事項についてというのは、一応私はもうこれで、大滝議員が出されてる冬ぶどう、これの1点に絞ってこの質問をしていけばいいと思うんですけど、質問というのがお話を聞きたいなと思う。ほんで1つ、これテレビで見たんですけど、高梁市なんか新しいブランドをするということで桃1点に絞って、年に6回か7回、そういう会合ですか、そういうことをされるというようなことなんで、その内容はわからないんですけど、もう私自身はこれでもうこの質問事項、これ一緒じゃ思うんですけど、1点に絞ってできればどんなかなと思います。

委員長（簀戸利昭君） 冬ぶどうについてということで、大滝委員の出されとる資料に基づいてということによろしいでしょうか。

委員（三輪順治君） 私はブランドのイメージも定義もそうなんですけども、今井原で、いただいた資料でお持ちのように、J A岡山西が25年度の品目別生産関係の資料ありますね。ブドウ関係もジャイアントマスカットからシャイン、ピオーネ、オーロラブラック、それからベリーA、その他あります。今、惣台委員さんのほうから冬ぶどうということで絞られたんですが、ブランドってということについて、私たちはこれからどういう手法でどういう形で市のほうに提案できるかということをやっていく前に、私は対象物には余りこだわらんのんですが、ただ最初から狭くしてやるよりも、今J A生産者部会の特にぶどう部会で、耕作者の数もわかっておりますし、それから面積も大体わかっておりますし、出荷量もこれJ A西がつかんだ範囲でわかっています。

したがって、後継者の問題も含めてお聞きする場合にまず底辺を聞く中で、冬ぶどうは合わせてお聞きして、生産者側から見た冬ぶどうの位置づけ、本当に井原として冬ぶどうを売っていけるかどうかというのを、今冬ぶどうは実証実験ですから。本当に定着したようなブランドになり得るのかということも含めて、計画調査もやっていかにゃあいけん。

ですから、話が長くなりましたが、要は余り絞らずにJ A岡山西さんといろんな意見交換をさせていただければというふうに思っております。

委員（大滝文則君） 私が提案しとるのを文書で配付してありますけども、先ほど言われ

たように冬ぶどうを市長のトップセールスということでいかれておりますけども、果たしてこれが地域的に可能性があるかどうかということで、温暖化の関係でということで、最初に可能性についてどういうふうに感じられてるかということをもまず考える、現場の意見を聞くこと。

それから、それが可能性があるとするれば、冬ぶどう拡大するために必要な支援、市への要望とかがあるかどうかということ。それから、先ほど言われたようにブドウというのいろいろな種類があります。ピオーネが一番ですけども、それこそシャインマスカット、瀬戸ジャイアンツ、そういった品目の生産確保、新たな生産拡大、また販路拡大に必要な支援についての、他市に類を見ないような支援ができるかどうかというような、可能性を探るための協議をしたらどうかということをもまずここで提案しとるわけで、大体同じ案かもしれん、もともと皆さんの話というのは。

そういうところから、まず第一歩目をスタートして、そこからいろいろな可能性を探っていくということで提案させてもらってますので。惣台委員はこの3つを含めて言われたということで、その底辺が狭いことはないと思うんで、その辺はご理解をいただきたいと思えます。

以上です。

委員（惣台己吉君） 私、何でこれ言うたかというたら、一つの例としてアスパラ、アスパラを矢掛なんかつくっておられるんですよ。そこで話を聞いたりしたときに、一つの例として、アスパラは2反つくって大体100万円なんですよ。ほんなら、井原市のやつで400万円に上げようと思やあ8反ということになって、機械なんかは3人が一緒になったら、3人生産者が集まって機械を買ったりの補助がもらえるらしいんです。ということで、ほんならいろんなことを調べるとこれがまた、耕作放棄地にはええかもわからんのですけど、副委員長、どれをとということになったら大分枠が広がって難しいんじゃないかなと思いますよね。調査するという意味ではあれですか。

委員（三輪順治君） 私も余りこだわらんのですが、ただ相手さんに対して冬ぶどうに集中して質問するとしたら、例えばブドウも井原市の農業の基本構想では作付面積が6ヘクタール、最低ラインを決めとるんですよ。それから、桃も70アールか、それからさっきおっしゃった野菜に至っては、例えば野菜だけ専業にしようと思ったら1.85ヘクタールということになっとんです、400万円稼ごう思うたら。

そりゃあ確かに理想はそうなんだけど、そういう中で今ブドウ部会が持つとる全般の話を聞く中で、冬ぶどうとなりゃあ私はええと思うんで、冬ぶどうだけにしたら非常に生産者の数も限りあるし、市議会としてそれに余り最初から集中的に議論するよりむしろ、潜在的なものを掘り起こすことも含めていろんなブドウ、もしくは他の産物もあるかわからんです

よ。だから、JAのもっと考えをお聞きするというのが客観的な意味で正しい調査するべきじゃないかなと私は思っとるんです。だから、意味は否定するつもりはないです。ちょっと広げていただいて、みんなで一緒にいろいろ聞きながらわいわいがやがやでいいですよ、座談会的な意見交換になればいいというふうに私は思っています。

委員（惣台己吉君） 私、何でこれにこだわるかというたら、源吉兆庵なんかお菓子屋さん、それともう一個、東京なんかで関東で展開されとんですけど、関東で展開されるところはイチゴ、ケーキなんかつくられて、イチゴ、これを仮に1人の人がさりょうちゃったら、今までこちらのほうだったら大体いいやつだけを出荷するわけです、ブドウにしても。それを、そこはそこの農家と契約をして全部引き取られるわけです。単価がどうかは置いて、全部引き取られて、いいやつはケーキの上に乗せたりとか使う。それから、ちょっと商品として落ちるものはそれをミキサーにかけたり、いろんなことでケーキかなんかに使われたりとかそういうことに使われる。やっぱりブドウも一緒だと思うんですね。それから、源吉兆庵、これブドウのやつを205株か何か、もう自分のところで販路を広げて、自分のあれで使うということで新聞に出てましたよね。だから、やっぱり僕はそういうことで、私は広げるとほんま広くなり過ぎるんで、今井原市にある、井原市が何に力を入れておられるかということでのところで、大滝委員が言われたように、そういうことで販路とかいろんなことも込めて、勉強会、調査ですか、そういうことをできないかなと思っています。

委員（三輪順治君） そういう意味では、ブドウでも今地元のほうでスイーツ、ブドウをふんだんに何やかんや、いろいろ販路に乗せるためのまず地元のアイデアとか、あるいは試行錯誤があると思います。ですから、一応でも半端なものは違う流通ルートに乗せていけばいいし、いいものは吉兆庵のほうとかにも。だから、別にブドウも冬であろうが旬であろうがやり方次第だと思うんです。

だから、井原ブランドという名前をつけるんじゃないら、何を付加価値をつけるかという話なんですよ。だから、そこに地域の誇りと品質管理を含めて井原が発信できるようなものをしていくというふうに、別に私が言ようるのは冬ぶどうは悪いことはない、いいんですけども、一般的にツールをつかまえた上でそういう整理したほうが、余り視野を狭く、そういう言い方は悪いですが、冬ぶどうだけに特化せずにやらんと、この委員会として議会としての総意が執行部のほうへうまく伝わらん。

議会はあくまでも農産物のブランド化について提言をするというテーマを決めたわけですから、そのためにはある程度視野も広げながら、やっぱりしかししないな、これしかないなということであればそれでもええし、いやちょっと考えてみたらもっとこういうふうにしていったらおもしろいよと。ブドウは本当に時期をずらすだけのものがええんか、あるいは付加価値を高めるのに今みたいにワインとかいろいろありますけど、それだけで済むんか、いや

もっと健康飲料含めて、サッポロホールディングスなんかと提携して何かできるか、そこらあたりはこれから仕込みをするので、とりあえずそういう発展方向を視野に入れる中で現状を正しくつかんでいく、物が生産させられなければ話はないんですから。

ですから、ヒアリング項目も冬ぶどうだけじゃのうても後継者の問題から、私は持論ですけども10年先の農業や5年先の農業を考えた場合に、果たして今のものが続いとるかどうかということすら非常に厳しく、議長も冒頭おっしゃったように人口も減っていく、消耗する地帯もふえてくるという、ある意味でちょっとおどかしのレポートも出ましたもんですから、そこで言ようるんであって、意味は惣台委員と変わったことは言ようるんです。結論はそうなったとしても、基本はそういうものをベースに持ちながらやっていきたい、そういうことを言ようるんです。

委員（惣台己吉君）　今の冒頭議長が言われた2040年というやつは、これはもう20代と30代かな、これの女性の数が物すごい減るということ、これがテーマなんです。ですから、それには定住促進とか、先ほど言われたいろんな耕作放棄地もありましようけど、まずあるいは雇用ということと、育てやすいということだから、こういう農業に関しても私は物すごい重要なテーマだなと思いますんで……。

委員（三輪順治君）　要は、農業に係る問題というのはいっぱい出尽くしとるんです、はっきり言って。じゃあ、どっからどのボタンからどがん押すかという手順と、あと支援策の工夫、これらの組み合わせとか、あるいは5年先はどうなつとるかという予想をする中で生き残る、それを見出すのが与えられたテーマの一つであって、うちの建設水道委員会のテーマも井原市の農産物のさらなるイメージアップに向けた地域ブランド化の確立及び新たな農業支援策の可能性を探る（耕作放棄地対策を含む）ことを目的にこのテーマが選ばれたわけですから、余り最初から、せっかく部会に行くんですから、いろいろお聞きして今話したような目的にかなうものが得られるような項目に設定すればいいということです。

委員（大滝文則君）　今、ちょっと確認しますけども、次の協議会についてはJ A及びぶどう部会としようと、その中でどういう意見交換する内容にしようかという話だと思うんです。それを確認しておきます。そういう中でどういう質問をとということなので私が、ほかの人は提案してませんが、したい中で、意見交換する内容の中でもう一度繰り返しますけども、冬ぶどうの可能性、これが果たしてこの温暖化の中で、この地域として将来的に可能性があるかどうかということも現場の意見を聞きたいという中で一番に上げておる、もしもそういう可能性があるとすれば、それを拡大するために必要な支援はどういうことがあるかと。

そして、3番目に先ほど委員長、副委員長が言われたように、井原全体のブドウはいろんな品種があるから、そういうブドウのいろんな品種の生産拡大及び販路拡大の動きの必要な

支援等々についてはどのように考えられてるか、もっとさらなる支援なり、今の支援をどういうふうに充実してしていくかということについての意見交換を、という中でこの1、2、3を私は上げておるんですけども。

まず、これが討論の前に意見交換する内容にふさわしいかどうかということをお話になってあつてしていただいて、その後にプラスアルファこの質問が要るのではないか、この質問が要るのではないかという話になると思うんです。ちょっと話が交錯しとるようなんですけども、そのあたりでちょっと進めていただかないと、話が同じところをぐるぐるぐるぐる回るような気がするんで、まず先ほど言いましたように、提案しとる1、2、3のことが果たして意見交換する内容にふさわしいかどうか、まずこれを協議していただき、プラスアルファでそれぞれの委員の意見を出していただくという手順にしていかないと、なかなか前へ進まないんじゃないかというふうに思いますんで、そのあたりよろしくお願ひしたいと思ひます。

委員長（簗戸利昭君） まず、それでは大滝委員のほうからブランド化についての質問事項ということで出されております。これで生産者団体、またJAとの協議にふさわしいかどうか、この項目でいいのかなのかのご意見をお伺ひします。

委員（柳井一徳君） 冬ぶどうということ、ブドウ全般という意味合いからでもいいと思うんですけども、副委員長さっき熱くおっしゃられておりましたけど、その中で冬ぶどうにどの品種が適しているのかということも可能性があると思ひますんで、そういう可能性を含めてこの質問は大切なことではないかというふうに思ひます。

そして、また支援策というものも確認をとっていかなければならない、要望も聞いていかなければならないというふうに思ひますし。

また、それ以外の大きい質問、私が思ひますのは、先ほど副委員長も触れられましたけれど、後継者問題、高齢化しておりますんで、そういったことも含めて新規就農者の可能性はどうか、支援策の見直しが必要なのか、そういうようなことも現場の人とも話をしていく必要がある。それには耕作放棄地の問題、面積等の問題があると思ひますんで、この3つの生産拡大、これにつながる質問になると思ひます。従事者の平均年齢を確認して、後継者問題に追求していく必要があると思ひます。その支援策はどういうふうにするのか、それからその対策として新規就農者をどういうふうにするのかというようなことを研究していかなければならないと思ひます。

そして、販路の拡大ということになれば、市長がトップセールスされておりますけれども、それ以外に6次産業化の可能性も考えていかなければならないのではないかなというふうなことも思ひますし、委員長、副委員長が余り幅広くしないほうがいいというふうにおっしゃられましたけども、こうやっていけばだんだんだんだん広くなってくる。ですから、最

低限この3つは必要な質問だと思います。

委員（三輪順治君） 仮にこの項目をそのまま読み取ると、冬ぶどうの可能性についてという意味合いなのですが、大滝委員のほうでおつくりになった場合にはこの可能性というのはどういう意味合いでお使いになったのか、ちょっと確認したいんですけど。

委員（大滝文則君） 先ほど言いましたように、井原市の場合、標高が青野あたりを200メートルと250メートル、美星あたりでも250メートルから400メートルのところでブドウをつくっております。市内一部が600メートル弱、550から600メートルという中で、温暖化がこれからますます進むとすると、冬ぶどうとしての生産量があるかどうかという、それからそういう品質を保持するためにはどのような技術的なことが要るのか、いろんなことがある中で、一番現場のことを知ってもらえる生産者団体から今後の可能性をまず聞くと。なかなか難しいんじゃないかという話が出るかもわかりませんし、となるとほかのほうへ特化したことをせんとスピーディーに変えたほうがいいかもしれませんし、そのあたりは話の中で変わってくるものだと思うんですけども。川上町あたりは、川上町というか高梁市ですけども、氷温冷蔵施設を持って、桃太郎というか瀬戸内ジャイアンツとか、シャインマスカットは太陽光を製造する施設を準備しとるらしいですけども、そういうことからしてそういう可能性があるかどうかとかということも、生産者団体が一番よくご存じでしょうから。ただ、川上町がJAびほくの場合は標高はかなり高いところが、まだこの地域より一段高いところの生産者がいらっしゃるんで、そのあたりも含めた環境というものがかなり井原市と、100メートル、200メートル標高が違うだけで可能性がまた変わってくるということもあるので、そのあたりをまず聞いてみないと、支援策が適切な支援になるかどうかということ、やっぱり感じるところがあるんじゃないかと、これをまず聞いてみて、次の段階の、先ほど言った全体の井原市、ブドウの生産量をますますふやしていく、海外に輸出するだけの生産量の可能性はあるんかということも含めた話。それから、先ほど柳井委員さんが言われたように4番目として、規模の維持を考えると新規就農者対策はどういうふうにしたらいいかという、そういった波及してくる質問をしていきやあええんじゃないかということなんです。

それから、1、2、3と僕出しておりますけども、そのあたり先ほど柳井委員さんが言われたように新規就農者対策、規模の維持に向けての、先ほども言った、市とすれば支援策、それをどのように考えていくかという目安を見つけるための交換会。

ですから、あとほかにも質問があるんかどうかということこれから協議すりやあええんであって、ほんま一つ一つがええじゃええじゃがという話じゃないと思うんですよ。

委員（惣台己吉君） 大滝委員が言われることはもっともなんです。何でかという、冬ぶどうの今の可能性についてということじゃったら、冬ぶどう単独で仮に400万円なら4

00万円の収入が得られるか、それにはどれだけの広さの耕作をつくらんといけんか。ほんで、結論は出とんです。これにはビニールハウスをすとかいろいろあるんですけど、結局後継者がいないからそこまでお金をかけるということができないというのがもう結論、これ言ってしまうやあもう終わりになるんですけど。ですから、それをどういうふうにしようかということになると今度は新規就農者とかという問題が出るから、この可能性についてだけでも聞くことはありますが。経営面、販路の面、後継者の面。

ですから、ただ単に冬ぶどうがこうじゃこうじゃということにはもう終わらん話になるんですから、そこは理解してもらって。ほんで、何を質問するかというてもそのときにいろんな質問が出ますが、ほんなら普通のやつもつくらんといけんですよとかという、そういうことを聞くんですから、ここでも今のこれをぱっと決めてしまうんじゃというようにやあ、これは百姓じゃったらならんですで、何をするにしても。項目が違うんじゃけえ。

委員（三輪順治君） お二方のご意見を参考にちょっと私もまとめますと、冬ぶどうの可能性は、タイトルはもうこれでええとして、内訳これ、多分お聞きになることをこうやって形に出しても何を答えてええかわからんと思うんです。

委員（惣台己吉君） いや、そういうことはないです。

委員（三輪順治君） 一般的にはね。だから、さきに大滝委員がおっしゃったように、例えば現在の生産者数とか、現状を押さえる意味で現在の生産者数とか数量、これは基礎的に要るでしょう。それから、気温上昇に伴う影響はどれだけあるんだとか。それから、量の拡大に向けた問題、技術的な内容であるんだとか。後継者の問題について思いがあるかどうか。そういうふうになんかちょっとブレイクダウン、細目に分けて質問をしてあげると答えるほうは難しいと思うんで、僕はあえてそうやって聞いたんですよ、否定するわけじゃない。可能性についてお聞きする中でそういう具体の中身を聞けば、ああどうかなあと、実際におつくりになってる方はどう思ってるんだとか、井原市とかあるいは行政機関に聞いたときにその冬ぶどう、マーケティング的にブドウの旬をおくらすことの意味というのを全体的に聞いていかにやあいけんだろうし、また別の分野ですよ。とりあえずは今言ったように、細項目を設けて照会先に出してあげるとするのは私は必要であろうというふうに思います。

委員（惣台己吉君） それならいいです。

委員（藤原清和君） 今いろいろ意見が出ておりますけど、そういうことをまとめたもので質問していくということで、一応生産者団体とはJA岡山西を関係者との話し合いすることによって決定していきましょや。そうしないと、ああでもこうでもねえとなってくるし、もう冬ぶどうを昔からつくりようるのはコールマンしかないんですよ、昔からずっとあるのは。これは今どういうふうになつとんかというのは、私ら全く知らないんじゃから。そういうことを含めながら質問していくということで、まとめたものはもう正副委員長にお諮

りしますわ、聞く内容については。今、皆さん意見出されたんじゃから、もうそれ以上のことは私はないと思いますよ。

委員（惣台己吉君） これじゃあ、まとまらんですね。行くんなら決をとるか何かせんと。何ぼ何でももうが全く折れんのんじゃけえ、そりゃあ。

委員（藤原清和君） 何を聞くかということについちゃあ、ここで出とるよ。

委員（惣台己吉君） ほいで、今副委員長がええこと言うちゃったけえ、今言われたことならわしは賛成ですけど。それで行きましょうや、決まりゃあへんですで、ほんま。

委員（三輪順治君） いや、決まりようんですよ。

委員長（簀戸利昭君） 先ほど副委員長がおっしゃられた生産者、面積、生産量についてお伺い……。

委員（藤原清和君） もうそういうことを言わずに、決まったことを……。

委員長（簀戸利昭君） それを生産者団体に向けて聞き取りを……。

委員（惣台己吉君） それはもうあっちが説明してくださりますわ、そういうことは。

委員（藤原清和君） ほじゃけえ、そりゃあもうええ。もうどんどん聞いていくということとでそうしましょう。

委員長（簀戸利昭君） 今いろいろと聞いていくというご意見でございましたが、それでよろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（簀戸利昭君） それと、所管の委員会で執行部に対する質問事項につきまして、6月定例会委員会において質疑をいたしたいと思いますがよろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（簀戸利昭君） 先ほど意見交換会について、どこにということ、JAと生産者団体、部会ということ、どこでございました。それで、時期をいつどこでということを決めていただけたらと思いますが。

委員（柳井一徳君） これはもう、こういう質問事項を先方さんに渡して交渉していただく委員長にお任せいたします。先方さんのご都合があると思いますんで、こちらからいついつということはなかなか申しにくいと思いますが、希望としては5月末、最後の週ぐらいで。

委員長（簀戸利昭君） 予定されとる28日ということでしょうか。

委員（柳井一徳君） その最後の週ぐらいでお願いできればということ、そんぐらいは先方さんも資料等を調べる時間も要と思うんで。

委員（惣台己吉君） 基本的には、委員長、こちらから出向いていこうとお考えですか。こちらへ来ていただくというお考えですか、基本的には、所管事務調査の。

委員長（簀戸利昭君） それはもう皆さんのご意見ですから、どちらでも。

委員（惣台己吉君） それをお聞きしようんです。基本的なことは考えてもろうとかんとね、こっちの都合でお願いすることじゃけえ。

委員長（簀戸利昭君） 基本的には所管の委員会なのでここへ招致、来ていただくのが筋だとは思いますが、皆さんのご意向とすれば座談会方式でということですから、出向いて行ってという形になろうかとは思いますが。

委員（惣台己吉君） 生産者の人を交えるといやあ、出向いていったほうがええわな。来てくれと言うよりは。

大滝委員、どがん思う。

委員（大滝文則君） これは、ここへ来ていただくとなると話を聞いてあげるみたいになってくるんで、やっぱり話を聞かせていただくという姿勢からすると行って、お願いをして話を聞かせていただくという形がいいんじゃないかと思えますんで、そのあたりを委員長のほうに一任しておきます。

委員長（簀戸利昭君） 出向いていくということでよろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（簀戸利昭君） それで、時期については相手の都合もありましょうけども、できれば次回の委員会開催予定日にできればと思います。できなければ延会になりますのでご了承をいただきたいと思えます。

〈異議なし〉

〈企業誘致等について〉

委員長（簀戸利昭君） 前回までの協議事項のおさらいをいたします。

情報収集、支援制度等の把握、近隣市町との支援制度の比較については農業と同様であります。意見交換会等の開催については、商工観光課及び産業支援コーディネーター、商工会

議所、商工会と行うことに決定をいたしました。

それでは、協議に入ります。

まず、質問事項について協議をいたします。

提出された質問事項等につきましては、事前に配付して確認いただいております。各委員におかれましてまとめていただいていると思いますので、これにより委員間討議を行いたいと思います。

委員（柳井一徳君） 先ほどのブランド化と同じで、現状の把握ということからスタートしていくべきだと思いますし、そういう面から行きますと大滝委員さんが質問事項を考えておられます6つの項目、これに沿って、1番でいえば現在までの取り組みについてを産業支援コーディネーターの方にもお尋ねをするべきだろうし、商工会議所等にも尋ねてみたいと。要因等も研究していかなければならない、検証していかなければならないんじゃないかなというふうに思いますので、この質問6項目に沿って進めていけばいいんじゃないかなと思います。

委員長（簀戸利昭君） 大滝委員の提出の企業誘致についての質問ということで、1から6まで書かれておりますがそれに従ってということによろしいでしょうか。

委員（大滝文則君） これもちょっと字句の整理はしていただければいいんですけども、それこそ慌ててつくっておりますから、それから農業関係とは違って商工会議所等々の企業関係、ちょっと私も専門分野でないので、その辺のあたりは字句の修正とか具体的な字句の整理というのはまたしていただければいいんじゃないかと思うんですけども、言わんとすることは井原市で企業誘致が全くできないと、近隣市町等はできているのになぜできないのか、今井原市の補助制度で果たしていいのかどうかということ、市当局とすればそれ以上のことを最終的には全くやる気がないんだっただけですけども、市議会とすれば何らかの案を提案して、一社でも企業誘致できるように提案ができればということですから、いろんな情報収集をしたいということで書いとりますんで、そのあたりをご理解をいただきたいと思います。

以上です。

委員（三輪順治君） 一点だけ、大筋これでいいと思います。タイトルに企業等というのを、等をちょっと入れといていただきたい。受け手は等の意味を複雑に考えられると思うんです。等を入れてください、そういうテーマですから。

委員長（簀戸利昭君） 企業誘致等の質問については、大滝委員が出されとる書類に基づいてやるということによろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（簀戸利昭君） 1から3までですかね、これは要は商工観光課のお話なのかなと思うんですが、大滝委員、それでよろしいでしょうか。

委員（大滝文則君） 先ほど退出されました藤原委員さんが言いましたけども、産業コーディネーター等を持ってきて、そういう取り組みも関係してくるんで、商工観光課及び、それこそ位置づけがどういうふうになつとるかちょっとわかりにくいんですけども、そういうことも含めた問いということ、商工会議所あたりですとどういうふうに捉えてるかという、微妙なところですけどね。それから、産業コーディネーターの場合は守秘事項が絡んでくるので、どこまでそういう情報が出るのかという、今進行中とかという話があったしてもなかなか話がしにくいこともありましようから、そのあたりをどういうふうに把握すればいいのか、それこそ皆さんの知恵をかりないとなかなかこれ難しいことだと思うんですけども。非常にデリケートな質問にもなると思うんです。そのあたりちょっと、先ほど言ったようにこれ短時間で書き上げておりますので、皆さんで検討していただいて適切な質問に、そのあたりをまた委員長に一任したいと思います。

委員（惣台己吉君） 今、大滝委員が言われたように、商工会議所はこれは一言で言ったら、一緒に情報を聞いたりしたいということをおっしゃられます。一緒に勉強していききたいという。ただし、今大滝委員が言われるように、一緒にするというたらいろんなまた難しい勉強面、調査とかが出てくるんじゃないかなという、難しい。

委員（柳井一徳君） まず、企業等の誘致ということで積極的に動いてもらうべきポストであるのが産業支援コーディネーターであろうと思いますので、その方をまず我々と面接させていただきたいとか、お会いしたこともない、私はそれはちょっと不勉強なんで申しわけないんですけど、まずそこからどういう活動しておられるのか、我々も把握が全然できてない。業種はどの業種を当たっておられるのか。そういうことも踏まえて、先ほど大滝委員が守秘義務があるから詳しいことまではできないだろうということをおっしゃられました。多分そうだと思いますので、業種ぐらいのものであれば具体名、企業名までは言うことはできないと思いますんで、発表できないと思いますんで、どういう業種が井原には合うのか、例えば養鶏場等もたくさんあって、坂本産業なんかも結構あります。そうするとキューピータマゴ、笠岡ですけど、そういった関連キューピーさんを、もっと何か違う企業さんはないのかとか具体的にそういう要望も我々はしていけるんじゃないか、それがもっと広がれば6次産業化にもつながってくるんじゃないかと、先ほどの惣台委員さんがおっしゃられた源吉兆庵さんの例もあります。そういう菓子メーカーさんなんかも提携ができる可能性もありますし、そういうことを産業支援コーディネーターに、具体的にちょっとそういう話も、お会いしてるのかとか、そういうことも含めて可能性があるのかどうか、そういうところを聞いていきたいということで、1から3までは商工会議所よりもコーディネータ

一のほうがいいんじゃないかなというふうに思います。

委員（惣台己吉君）　それで、コーディネーターの方にどこまでどういう範囲、商工会議所を入れても話ができるかどうかということをもまず聞いていただいて、それからでない。

局長（三宅道雄君）　所管事務調査は、非常に限られた時間の中で方向性を出していかれたいというふうなお考えをお持ちです。その中で当然定例会期間中には執行部に質問が通常なされるわけですけれども、今この質問事項、大滝委員さんの案を拝見いたしまして、執行部側に対する質問事項とほかでなければ聞けない質問事項、こちらのほうを切り分けられたほうがいいんじゃないかと思えます。時間が限られておりますので、特に商工会議所に聞かなければならない事項、あるいはコーディネーター、まあコーディネーターさんは嘱託ということにしてるので、市長部局の人間になるわけですけれども、コーディネーターになってこういったこと、特に相談が多かったのはこういった業種ですよとかという、そういったことも多分皆さんご存じないと思うので、あるいはコーディネーターさんの職務していく上での支障になる案件、ですからこの1から6までありますうちに、例えば外部から見た井原市での企業誘致が成立しないように、これは執行部には再々質問があったことだと思うんですけども、こういったものは商工会議所さんの見解ですとか、あるいは企業誘致補助制度の課題について、これも商工会議所、あるいは受益者のほうから見たことの課題とかという形で、そこに切り分けられて問題を絞っていったほうが後の解決方法も簡単なんじゃないかなと思えます。ですから、産業支援コーディネーターさんのご意見を聞くというのも、それは商工観光課のほうにコンタクトをとれば、別途、多分時間設定は可能だと思いますので、これも先ほどの農業と同じような形で、ここに招致するというよりも出向いて行って、話を聞かせていただく場をつくっていただくというふうな形でやっていただけたらいいのではないかなというふうに考えております。

以上でございます。

委員（三輪順治君）　今、事務局長がフォローしていただいた中身で結構だと思います。特に産業支援コーディネーターの方につきましては、嘱託員ということで任期も限られてますし、現在2名いらっしゃいますけど、技術系と事務系で。守秘義務の関係もあってちょっと配慮せにゃあいけん場合もありますんで、できれば理事者が同席した上で判断をしながらやっていただければ運用上問題ないと。支援コーディネーターが余りしゃべり過ぎると、我々要らんことまで知らにゃいけんようになるんで、商工観光課の課長以上の方を同席した上でお聞き取りになれば、実務上は問題ないというふうに思います。

委員（大滝文則君）　今のいろんなご意見の中でいいんじゃないかと思いますが、商工観光課と産業コーディネーターでとりあえず1、2、3、プラスアルファはあると思うんですけども、1、2、3のことをまず聞いてみると、ほかは初めの一步で、それからいろんな展

開があると思いますので、今言われた流れでいいんじゃないかと思います。よろしくお願ひ
します。

委員長（簀戸利昭君） まず、商工観光課及び産業支援コーディネーターと、商工会議所
と商工会ということは分けてはいかがでしょうか。

一括にということにはなかなかいかんのではないかなと思われまふので。

〈異議なし〉

委員長（簀戸利昭君） 商工観光課及び産業コーディネーターの方は定例会中にするの
か、出向いていってするのかを決めていただければと思います。定例会中では、できれば商
工観光課の企業誘致に関する事業についてお話を聞くと、経緯を聞くということになるか
と思ひますが。

委員（大滝文則君） 前段で公式の場合と、公式でない場がいい場合があると思ふんで、
前段の今段階なので、公式よりも非公式というほうがいいんじゃないかな。公式で形に残っ
てくると、より現在進行形のような話があると、なかなか話としてからかみ合わない話にな
ってくる可能性があるんで。さっき言った守秘義務や等々の関係も出てきますし、できれば
さっき言った農業者団体と同じ日に、それが朝なら今度昼からそちらのほうの設定してもら
うと、そっちが朝でこっちが昼からというふうに、1日で済むようなことができればお願ひ
しときたいと、決めてもらいたいと思ふんですが、だめな場合は別々でも構わんのですけど
も、要は最初は出向いていって、あちらの会議室でと思ふんですがどうでしょうか。

委員長（簀戸利昭君） 今、大滝委員のほうから、出向いていって商工観光課及びコーデ
ィネーターとご一緒というご意見が出ましたが、いかがいたしまししょうか。

〈異議なし〉

委員長（簀戸利昭君） 日程については相手の都合がありましようから、できれば農業と
同じ日というご意向で伝えてはみますが、どうなるかは何とも申し上げようがありません。

〈異議なし〉

委員長（簀戸利昭君） 特に質問事項についてはこういう内容でよろしいでしょうか。

委員（惣台己吉君） もう一点、これ誰に聞くんか私わからないんですが、井原の立地条

件があって、ここへはどのような企業を誘致するのがメリットがあるか、来てくれるか。

一つの例があります。岡山の理科大学がマグロの淡水、フグとかヒラメとか飼ようになりますよね。あのようなのが井原に来てくれることが可能なかどうかとかという、そういうことを調べたりする、教えてくれるようなそういうことができるんですかね。例えですよ。

委員（三輪順治君） 岡山理大の担当教授にアポとって行こうとしたんですが、基本的には企業はアウト、締め出しです。ただし、公的機関やそういう、もちろん行政もそうなんじゃけど、それは見学もオーケーだということは聞いております。そっから先は、私はもうこれが話が出てからアプローチしておりませんが、可能性としてすればおっしゃったように、もう水槽を持っていけばフグが美星でもとれるわけですから、そりゃ可能性はあります。否定するもんじゃありません。

委員（惣台己吉君） 私、テレビの情報ですけど、実際山奥につくるといふ、それはあつちはあれを掲げておられますからね。ほんで、港のところとも交渉されてますし、そういう田舎の山の中へするということも考えておるといふのは聞いたんですけど、ほんなら設備を全部こっちがするんかどうかといふのは、そういうことは知らないんですけど、おもしろい発想じゃないかと。これはもう一番煎じで、できればお話を聞いていただきたい。もうぎょうさん行きようと思えますけど。

委員（三輪順治君） 役所の関係もあるし、とりあえずやることやって、次のステップ行きましょう、とりあえず。

委員（惣台己吉君） そういうほかのやつもええんがありゃあええですけどな。

委員長（簀戸利昭君） 先ほどにまた戻りますが、商工観光課と産業コーディネーターの場合は出向くと、商工会議所、商工会との意見交換をいつごろできればいいのかといふのも決めていただけたらと思えますが。相手先の都合でよろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（簀戸利昭君） 特にこのほかで質問事項等があれば、皆さんで討議いただければと思えますが。

委員（柳井一徳君） 先ほど局長がおっしゃられた執行部への質問、一般質問でもやりましたけれど、いろんな議員さんがやられておりますが、例えばオーダーメイド方式、そういうこととかあると思えますんで。区別していくということを局長がさっきおっしゃられました。本当にそうだと思うんですよ。今はターゲットっていう、ターゲットといふか、相手先を今決められたんですけど、その中の質問はこの3つまでの取り組み、今後の取り組みも含めての、今までの過去の実績等の話し合いだとは思いますが、支援制度であるとかそう

いった執行部に尋ねるべきことはどういうふうにされたらいいのでしょうか。

3番まではとにかく今決めた質問先でいいと思うんですよ。とりあえずもうここまでの3つで進んでいくんですか。

委員（大滝文則君） プラスアルファに行きようなんです。

委員（柳井一徳君） プラスアルファいいです。3つまでは、もうこの3つの産業コーディネーター、商工会議所、商工課に関しては以上の質問で、3つまでの質問でいいと思います。

委員長（簀戸利昭君） 執行部に対する質問事項につきましては、6月定例会の委員会において質疑していただければありがたいと思います。よろしくをお願いします。

先ほども局長が申された商工会議所と商工観光課及び産業コーディネーターのさび分けはどういたしましょうか。項目のさび分けをしていったらと思うんですが、1から6の。

委員（大滝文則君） 1から3番でしょう。

委員長（簀戸利昭君） 商工会議所。

委員（三輪順治君） 商工会議所独自事業があろう。へえから、商工会議所の分析しとる井原市の成立要件があるじゃろう。1から3、1から3というて。

委員長（簀戸利昭君） ダブっていくんですか。

委員（三輪順治君） ダブるといふか、あえてせんのよ。

委員長（簀戸利昭君） ご意見としてどうぞ。

委員（三輪順治君） 企業等誘致でございますので、かなりデリケートな問題が中に入ってくると思いますが、基本的にはこの対象団体については、同じ項目を中心に意見交換会ないしは座談会のような形で進めたらいいと私は思います。

委員（惣台己吉君） 商工会議所のとこのやつは、今帰られとんですけど、藤原委員さんにもちょっと相談してもらって、したほうが。個人的にはそりゃ会頭も副会頭で、この企業誘致の件は上野さんがさりょうてんですよ。上野さんもなられたばかりで、会頭にしてみてもとにかく私らもいろいろ聞きたいことがあるんです、聞きたいといふか勉強していきたいことがあるんじゃないかといふこと。ほんで、今どういうふうにいふたら1から3の問題についても、先ほど副委員長が言われたように、商工会は商工会の取り組みといふものはありましようけど、じゃけえ商工会も要はよそのを聞きたいといふか、じゃけえ座談会方式で。

委員長（簀戸利昭君） 藤原委員と相談するといふことによろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（簀戸利昭君） それでは、次回の委員会での協議内容といふことでありますが、

先ほど申された商工観光課及び産業コーディネーターと日程調整ができ次第、先ほどの内容に従って意見交換会をするということによろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員（三輪順治君） その際、公開、非公開の問題があるんですが、新聞記者も今おらんんですが。例えばオープンな形でええか、それとも関係者だけでやってやればええか、私は関係者だけでやってやりゃあええと思うんじゃないけど、ちょっとそこだけ聞いとかなと。原則公開が委員会なんで、秘密会にする場合は、秘密会というか座談会だから正式な会議じゃないんだという、ややこしいこと言わんと、そういう位置づけでざっくばらんにするんだという意味でええかということだけ委員長押さえてってください。

局長（三宅道雄君） 所管事務調査、特に今年度から活発に行われておるようでございます。その中で今ほど出向いて行ってという話が出てまいりました。所管委員会それぞれ委員会視察という形で視察旅費を計上しておりますけれども、これは当然公開も非公開もないわけですし、向こう様の都合ということで、今回の出向いていく、JAさんにしろ、それからぶどう部会にしろ、あるいは商工会議所にしろ、出向いていくという中で、あくまでも委員会委員さんが勉強に出向くんだというスタンスであるならば、もう公開、非公開というのは向こう様のご意向に従っていただければいいんじゃないかというふうに考えますし、それから当然市内視察というような意味合いが非常に強うなってくると思いますので、これも委員会、このように開催して毎回議事録概要をとっているわけでございますけれども、そういったものよりもっとくだけた格好で、勉強に出向いていくんだよというふうなお考えで臨んでいただければいいんじゃないかというふうに考えます。これは事務局サイドの意向でございます。

以上でございます。

委員長（簗戸利昭君） 局長が今おっしゃられたことによろしいでしょうか。

〈異議なし〉

委員長（簗戸利昭君） 現在までの所管事務調査全般につきまして、委員から何かございましたらお願いをいたします。

委員（三輪順治君） お手元のほうに資料を新しく、目次案で左方とめてあるA4、2枚がありますが、これはあくまで私案でございますので、これはこんな肩肘張らずに最終的には多分A4判1枚か2枚のイメージで提案するつもりでおりますが、ただバックデータとい

うのはかなり出てきますので、イメージ的にはこんな形で頭の中を整理しながら、最終的にポイントを絞って提案をしていくということなんで、これは参考までに見といてください。ですから、第4章まとめとありますね、2ページ目の。第4章まとめのここがもうポイントになります。このポイントに向けて何やかんやしていくわけですから、そういうことで参考程度にお願いしたいと思います。分担執筆せえというて今言わんですから、参考程度によろしくをお願いします。ありがとうございました。

〈その他〉

〈なし〉

〈議長あいさつ〉

委員長（簀戸利昭君）　それでは、以上で建設水道委員会を閉会いたします。